

の心で各国首脳を迎えましょう！

いよいよ北海道洞爺湖サミット開催まで1カ月をきりました。

昨年の4月23日に洞爺湖開催が正式に発表されてから440日間。町では、サミット推進町民会議を中心に、さまざまなおもてなし活動や環境対策について取り組んできました。

特にサミット開催の中心となる洞爺湖温泉街は、花で飾られ、首脳らが気持ちよく来訪できるよう態勢を整えています。

7月7日からのサミットには、G8首脳以外にもアジア、アフリカ、中南米など23カ国の首脳らが参加し、いまままでにない規模となることが報道されています。それに付随して多くの報道関係者も訪れることでしょう。

この3日間は、この洞爺湖が世界の中心となるといっても言い過ぎではありません。

まさに洞爺湖をそして洞爺湖町を国内外にアピールするには、またとない機会です。

様々な機会をとらえて、いろいろな国の人に洞爺湖の魅力を伝えていきましょう。町民一人ひとりが洞爺湖町の親善大使になりましょう。

その一つひとつの行動がサミット後のまちづくりにつながっていきます。

環境と観光を結びつける新たなまちづくりの方向性が、このサミット開催の中に含んでいます。

「おもてなしの心で世界へ

環境と観光のまち洞爺湖」。

花いっぱいでおもてなし

サミット開催50日前の5月18日に先立ち、17日洞爺湖周辺地域観光ルネサンス事業組織委員会（若狭洋市会長）による植栽が行われました。

当日は、町民ら約80人が参加して、道道洞爺湖登別線沿いに設置されている植栽マスに、ベコニア、サルビア、キンギョソウなど18,000株を植えました。

およそ1kmにつらなる花壇の列に参加者は感激し、「噴火の時は、こんなきれいな町になるとは思っていなかった」と感慨深げに話していました。

また「いきいき教室」（レクリエーションクラブ主宰）に参加している皆さんが、サミット開催も近づいた5月9日、成功に向けて協力しようと洞爺駅前の花壇の草とりを行いました。



道道洞爺湖登別線沿いに植栽する参加者